

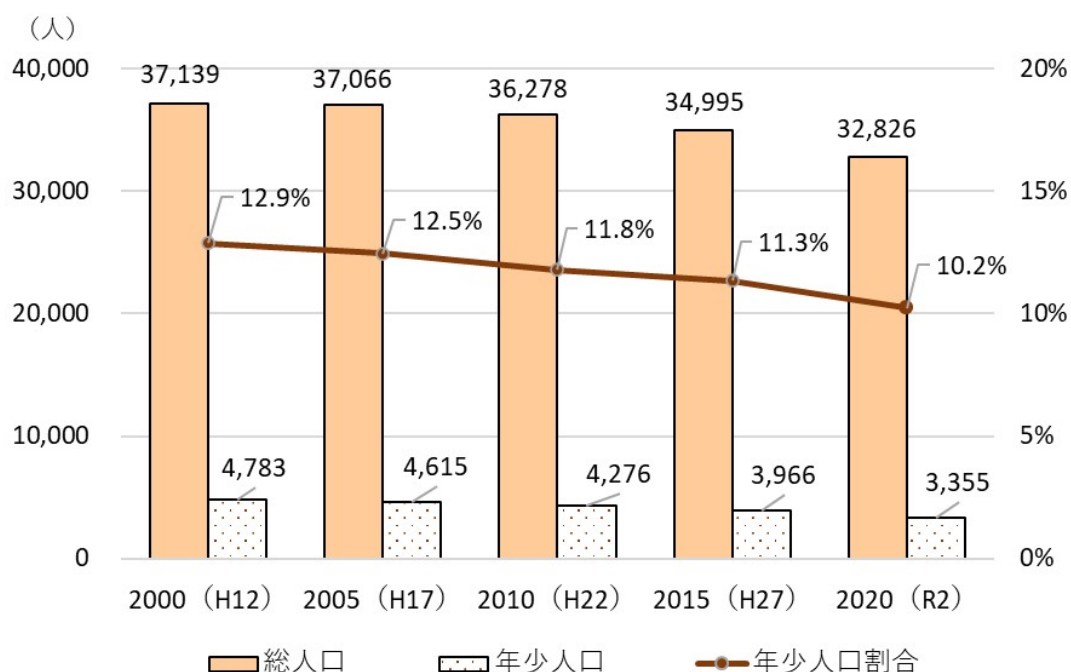
第2章 子どもと子育て家庭を取り巻く現状

1 伊達市の人口動態

(1) 総人口及び年少人口の推移

本市の総人口は、2000（平成12）年から2005（平成17）年まではほぼ横ばいで推移しているが、2010（平成22）年からは減少に転じている。また、年少人口（15歳未満）は、2000（平成12）年に4,783人だったものが、2020（令和2）年には3,355人となり、総人口に対する割合は12.9%から10.2%と減少している。

【グラフ2-1】



【表2-1】

(人、%)					
年齢	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
総人口	37,139	37,066	36,278	34,995	32,826
年少人口	4,783	4,615	4,276	3,966	3,355
割合	12.9	12.5	11.8	11.3	10.2

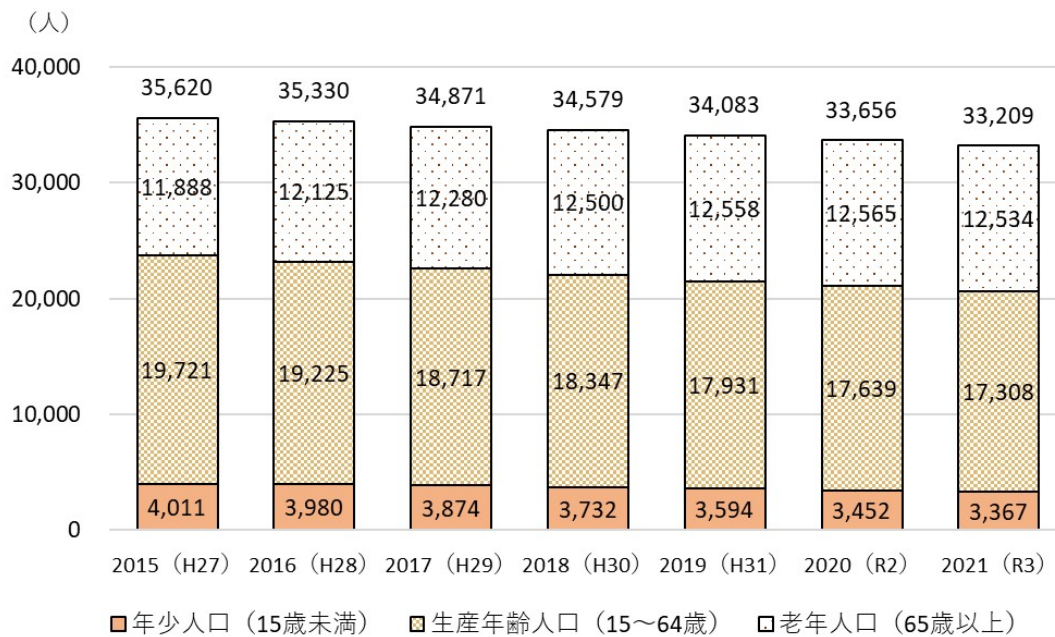
資料：国勢調査（各年10月1日）

(2) 年齢3区分別人口の推移

第1期計画期間以降の本市の年齢3区分別人口について推移をみると、年少人口（15歳未満）及び生産年齢人口（15～64歳）は減少する一方で、老年人口（65歳以上）は増加傾向にある。総人口に占める割合は、年少人口は10%台でほぼ横ばいで推移しているのに対し、老年人口は33.4%から37.8%まで増加している。

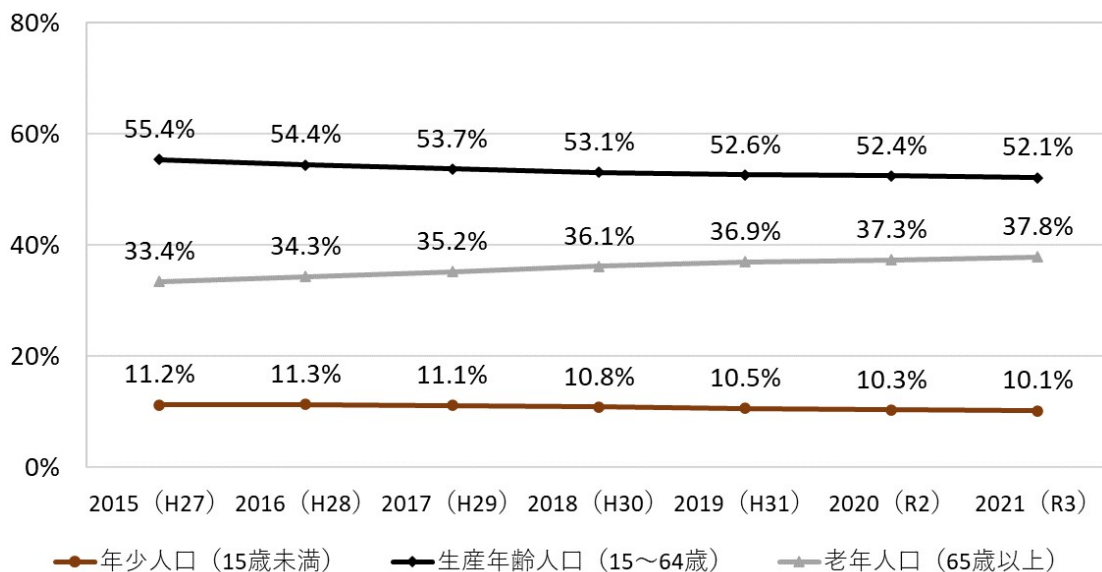
【グラフ2-2】

■年齢3区分別人口の推移



【グラフ2-3】

■総人口に占める割合

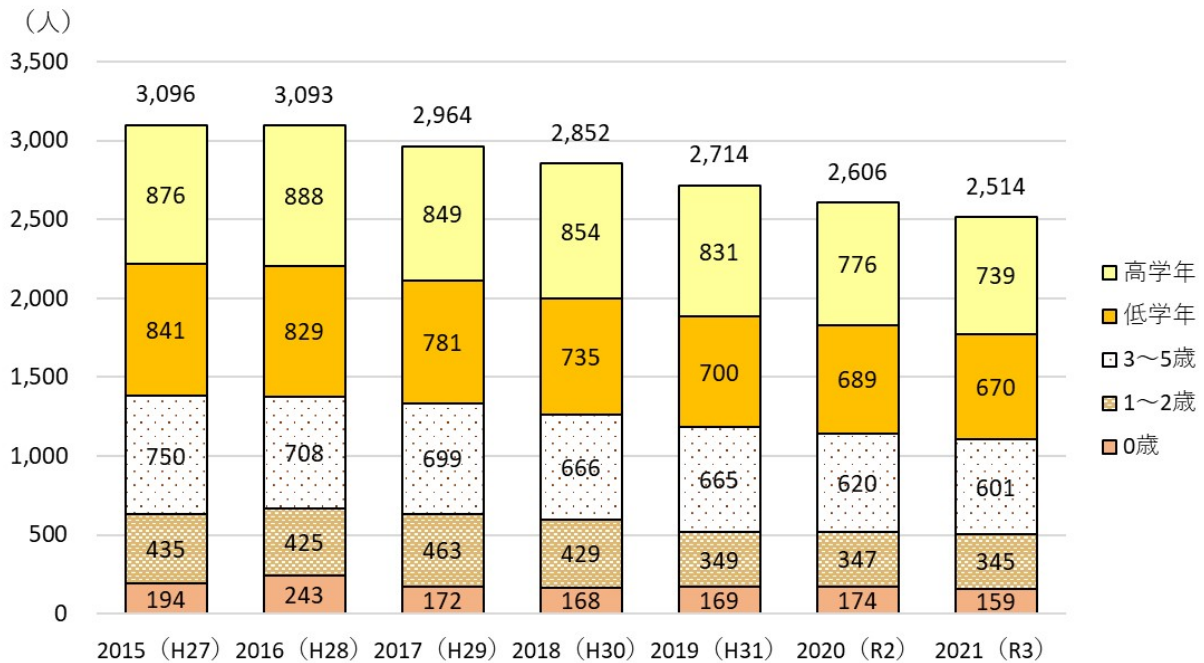


資料：住民基本台帳人口（各年4月1日）

(3) 小学生以下人口の推移

第1期計画期間以降の本市の小学生以下の人口推移は、2015（平成27）年の3,096人が2021（令和3）年には2,514人と、およそ600人減少している。出生数の多かった2015（平成27）年生まれを含む年齢層の人口は一時的に増加しているが、それ以外の年齢層はいずれも減少している。

【グラフ2-4】



【表2-2】

(人)

年齢	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
0歳	194	243	172	168	169	174	159
1~2歳	435	425	463	429	349	347	345
3~5歳	750	708	699	666	665	620	601
就学前計	1,379	1,376	1,334	1,263	1,183	1,141	1,105
低学年	841	829	781	735	700	689	670
高学年	876	888	849	854	831	776	739
小学生計	1,717	1,717	1,630	1,589	1,531	1,465	1,409
計	3,096	3,093	2,964	2,852	2,714	2,606	2,514

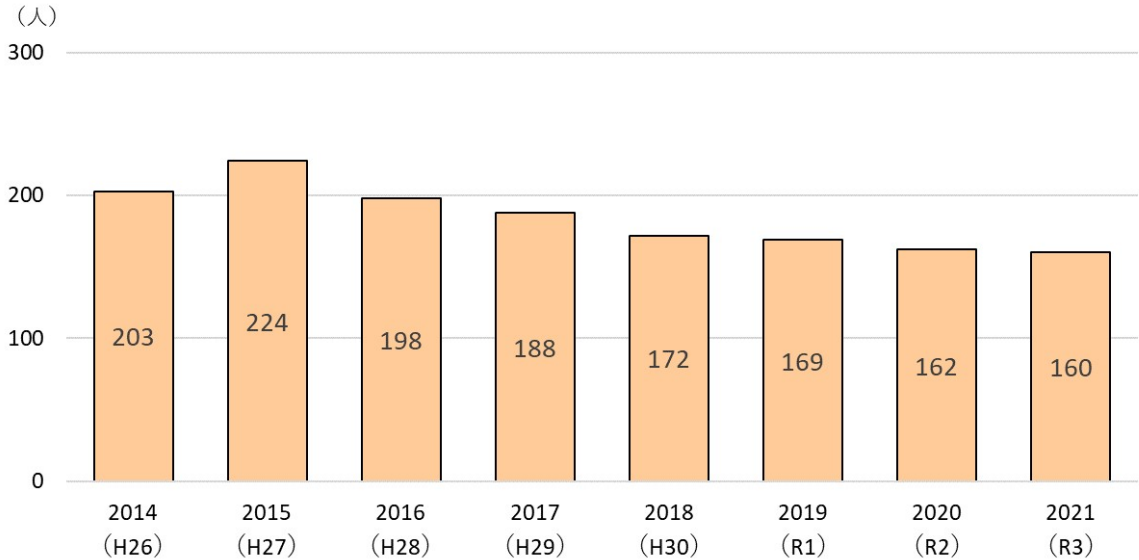
資料：住民基本台帳人口（各年4月1日）

(4) 出生数・出生率の推移

過去8年間の出生数は、2015（平成27）年に一時的に増加したもの、減少傾向が続いている。人口1,000人当たりの出生数を示す本市の出生率と全国・北海道の出生率を比較すると、本市はすべての年で下回る状況で推移している。

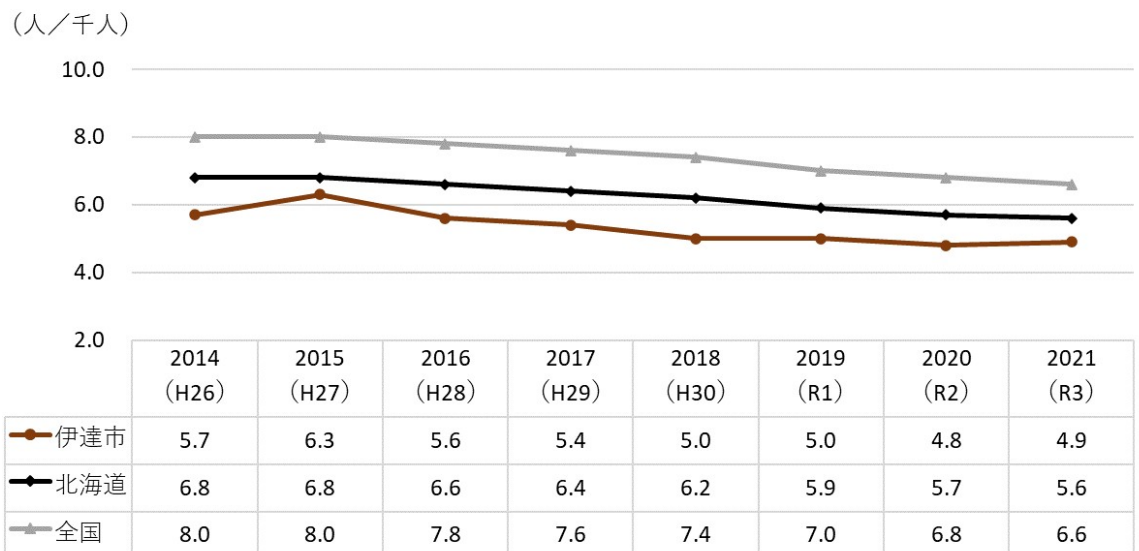
【グラフ2-5】

■出生数の推移



【グラフ2-6】

■出生率の推移



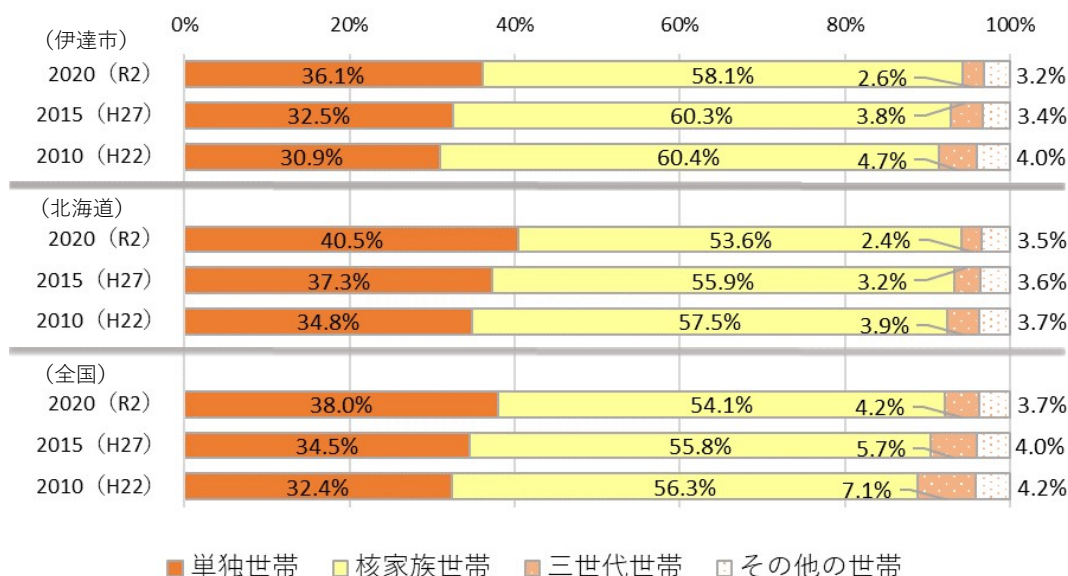
資料：住民基本台帳人口動態（各年1月1日～12月31日）

2 子育て環境の状況

(1) 世帯構成比の状況

2020（令和2）年の国勢調査では、本市の世帯類型の構成比は、単独世帯が36.1%、核家族世帯が58.1%、三世帯世帯が2.6%、その他の世帯が3.2%となっており、2015（平成27）年と比較すると単独世帯の構成比が高まる一方、核家族世帯と三世帯世帯が減少している。また、一般世帯に占める単独世帯の構成比は全国・北海道よりも低く、核家族世帯の構成比が高くなっている。

【グラフ2-7】



【表2-3】

	2010年		2015年		2020年	
	世帯数	構成比	世帯数	構成比	世帯数	構成比
単独世帯	4,706	30.9%	4,857	32.5%	5,327	36.1%
核家族世帯	9,190	60.4%	9,012	60.3%	8,567	58.1%
夫婦のみ	4,324	-	4,279	-	4,167	-
夫婦と未婚の子	3,513	-	3,318	-	3,026	-
ひとり親と未婚の子	1,353	-	1,415	-	1,374	-
三世帯世帯	718	4.7%	569	3.8%	383	2.6%
その他の世帯	613	4.0%	515	3.4%	469	3.2%
一般世帯 計	15,227	100.0%	14,953	100.0%	14,746	100.0%

資料：国勢調査（各年10月1日）

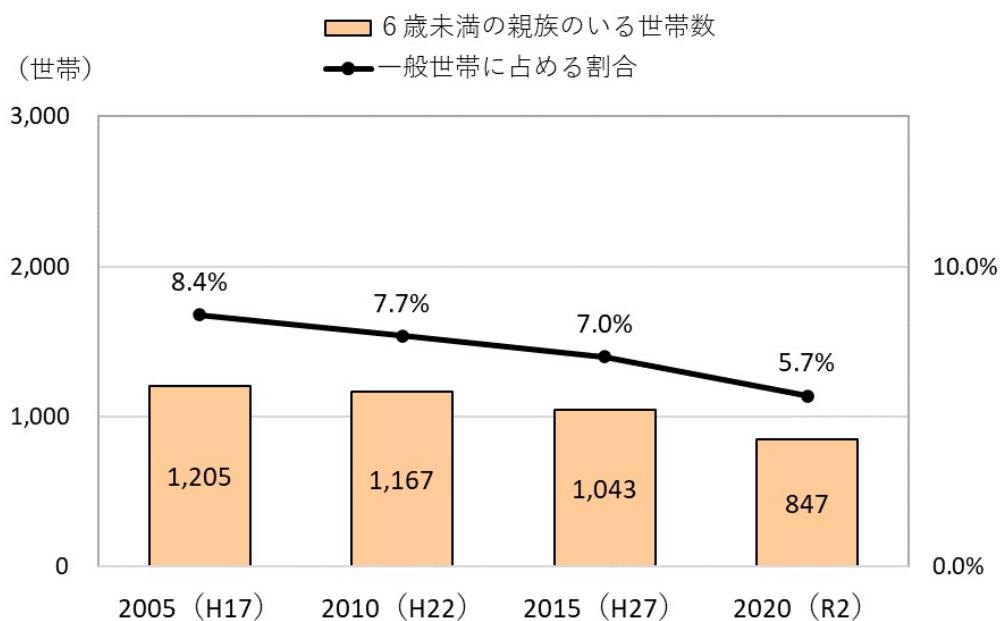
※上表の世帯類型は下記の通り

世帯	一般世帯	単独世帯	
		親族のみの世帯	核家族世帯
		三世帯世帯	
	その他の世帯		
	施設等の世帯		

(2) 6歳未満の親族のいる世帯の状況

本市の6歳未満の親族のいる世帯数は、2005（平成17）年に1,205世帯であったが、2020（令和2）年には847世帯と減少している。また、一般世帯に占める割合も、2005（平成17）年に8.4%だったものが2020（令和2）年には5.7%と減少している。

【グラフ2-8】



【表2-4】

		2005年	2010年	2015年	2020年
6歳未満の親族のいる世帯数	世帯	1,205	1,167	1,043	847
一般世帯に占める割合	%	8.4	7.7	7.0	5.7

資料：国勢調査（各年10月1日）

(3) 女性の就業状況

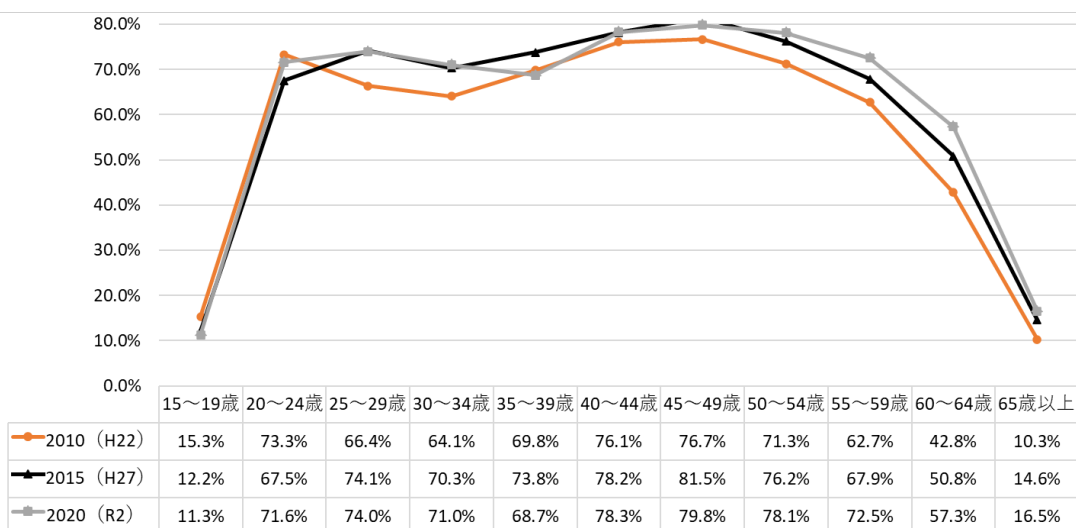
2020（令和2）年の国勢調査における年齢別の女性の就業率は、20歳～59歳の年齢層において35歳～39歳の年齢層を除き7割を超え、2015（平成27）年を上回る結果となっている。

また、女性の就業率は、かつて出産・育児期に当たる20歳代後半から30歳代の年齢層の就業率が下がり、M字カーブを描く傾向がみられていた。2015（平成27）年の国勢調査では、この傾向が薄くなっていたが、2020（令和2）年の国勢調査でも、この傾向が続いており、働き続ける女性が多いことが推察される。

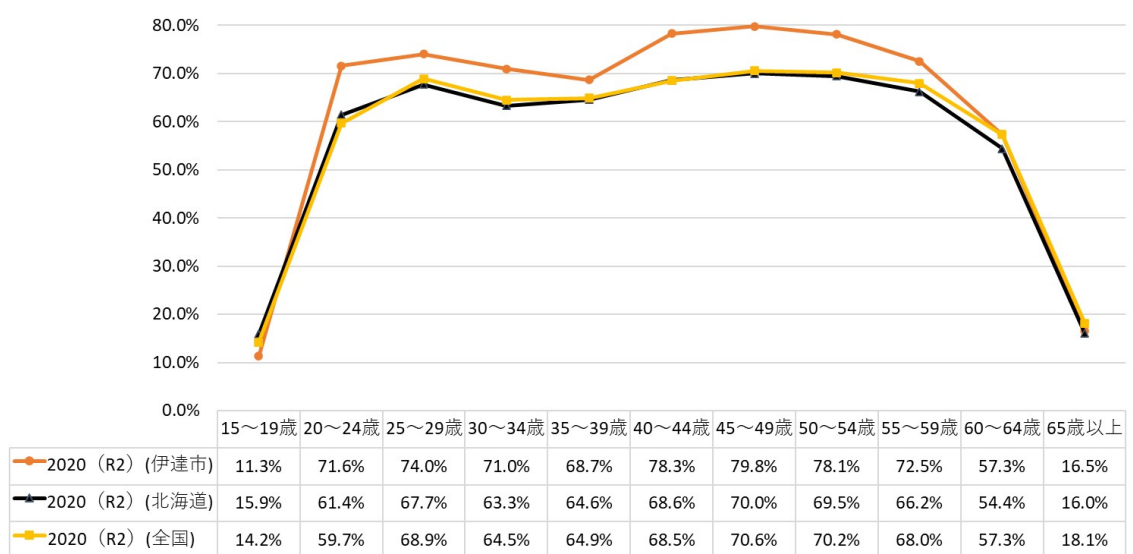
2020（令和2）年の国勢調査において、就業している女性の割合を全国・北海道と比較すると、20歳未満と65歳以上を除くすべての年齢層において全国・北海道を上回っている。

【グラフ2-9】

■本市の女性の就業率



【グラフ2-10】



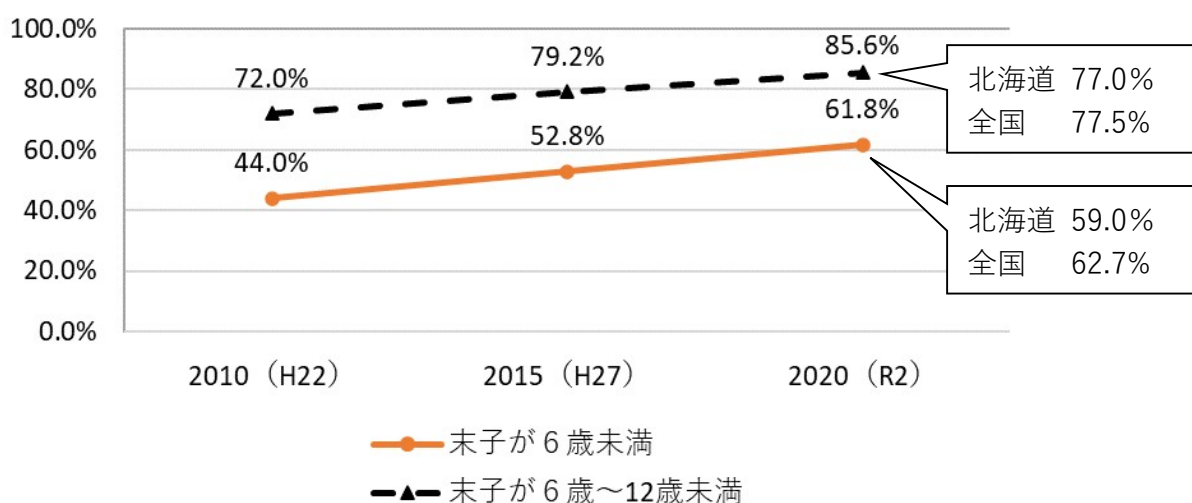
資料：国勢調査（各年10月1日）

(4) 子どものいる世帯の就業状況

2020（令和2）年の国勢調査によれば、本市の末子が6歳未満の一般世帯における共働き率^{※1}は61.8%、末子が6～12歳未満の世帯における共働き率は85.6%となっており、特に全国・北海道の値と比較して末子が6～12歳未満の世帯で高い水準となっている。

また、2015（平成27）年の国勢調査と比較すると、末子が6歳未満の世帯で9.0ポイント増、末子が6～12歳未満の世帯で6.4ポイント増となっており、末子が小学生以下の子どものいる世帯における共働き家庭の割合が高くなっている。

【グラフ2-11】



【表2-5】

		2010年		2015年		2020年			
		共働き世帯数	共働き率	共働き世帯数	共働き率	共働き世帯数	共働き率	北海道共働き率	全国共働き率
末子が6歳未満世帯	一般世帯	454	44.0%	488	52.8%	427	61.8%	59.0%	62.7%
	核家族世帯	390	42.1%	448	52.0%	409	61.4%	58.5%	61.9%
	三世帯世帯	64	61.0%	40	63.5%	18	72.0%	69.5%	70.7%
末子が6～12歳未満世帯	一般世帯	503	72.0%	527	79.2%	488	85.6%	77.0%	77.5%
	核家族世帯	448	71.9%	478	78.9%	454	85.5%	76.4%	76.6%
	三世帯世帯	55	72.4%	49	81.7%	34	87.2%	85.8%	85.0%

資料：国勢調査（各年10月1日）

用語の解説

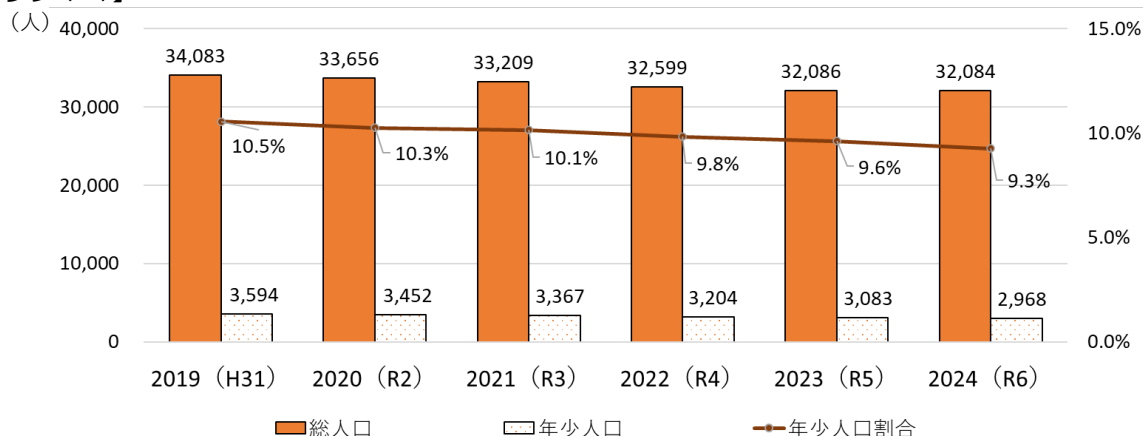
※1 **共働き率**：夫婦がいる一般世帯で、かつ、夫婦いずれも就業している割合。

3 計画期間の人口推計

(1) コーホート変化率法^{※1}による人口推計

本市の将来人口をコーホート変化率法で推計すると、2019（平成31）年に34,083人だった総人口は、2024（令和6）年には32,084人と5.9%減少することが見込まれる。また、2019（平成31）年に3,594人だった年少人口は、2024（令和6）年には2,968人と17.4%減少し、少子化の急速な進行が見込まれる。

【グラフ4-1】



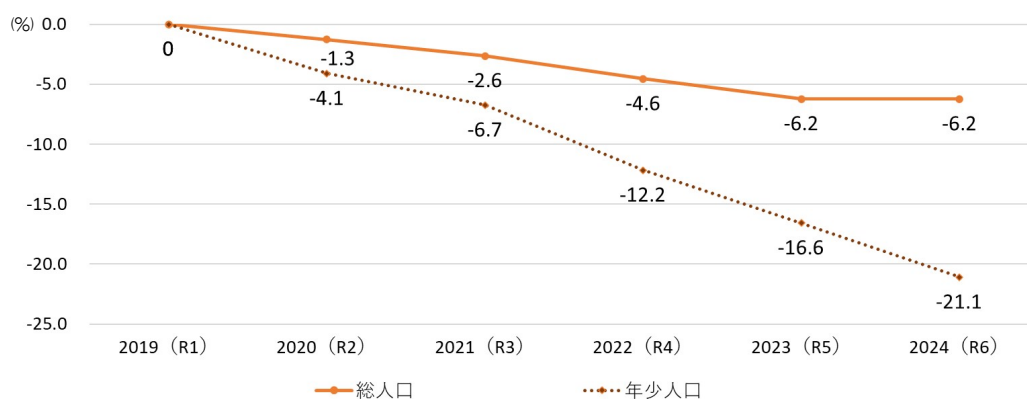
【表4-3】

区分	実績				推計	
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
総人口	34,083	33,656	33,209	32,599	32,086	32,084
年少（15歳未満）人口	3,594	3,452	3,367	3,204	3,083	2,968
年少人口割合	10.5%	10.3%	10.1%	9.8%	9.6%	9.3%

資料：2022（令和4）年までの実績は住民基本台帳人口（各年4月1日）。2023（令和5）年、2024（令和6）年の推計値は、2020（令和2）年～2022（令和4）年の住民基本台帳人口（各年4月1日）に基づき算出を実施したため、第7次伊達市総合計画における国立社会保障・人口問題研究所による国勢調査人口に基づく数値とは一致しない。

【グラフ4-2】

■2019（平成31）年からの人口減少比



用語の解説

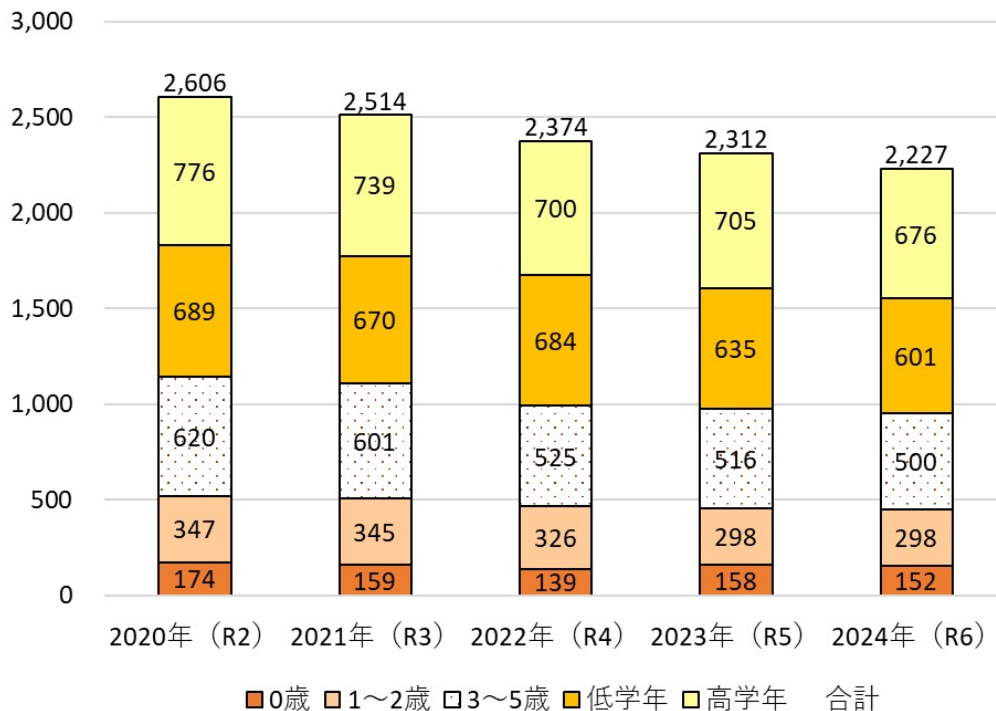
^{※1} コーホート変化率法：同じ年・時期に生まれた集団について、過去における実績人口の動勢から変化率を求め、それに基づき将来人口を推計する手法。

(2) 小学生以下人口の見通し

2020（令和2）年に2,606人だった小学生以下の人口は、2024（令和6）年には2,227人と、およそ350人程度減少することが見込まれる。

【グラフ4-3】

(人)



【表4-4】

(人)

年齢	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
0歳	164 (174)	162 (159)	164 (139)	158	152
1~2歳	344 (347)	354 (345)	338 (326)	298	298
3~5歳	612 (620)	594 (601)	532 (525)	516	500
就学前 計	1,120 (1,141)	1,110 (1,105)	1,034 (990)	972	950
低学年	689 (689)	682 (670)	682 (684)	635	601
高学年	774 (776)	758 (739)	724 (700)	705	676
小学生 計	1,463 (1,465)	1,440 (1,409)	1,406 (1,384)	1,340	1,277
計	2,583 (2,606)	2,550 (2,514)	2,440 (2,374)	2,312	2,227

※2020年～2022年の（ ）書きは実績値

資料：住民基本台帳人口（各年4月1日）